「隠れたところにいる神に」

マタイによる福音書 6:16−18
ヘブライ人への手紙４:13

2025年７月６日
野村 友美 師

＜断食とは＞

先週は、きんさい礼拝にチャペルコンサートにと、慌ただしくも楽しい１日でしたね。皆さんが心を合わせて祈り、協力してくださったおかげで、本当に素敵な１日になりました。改めまして、ありがとうございました。

さて、今日は７月の最初の日曜日です。

今日からマタイの福音書に戻って、イエス様の「山上の説教」の続きをご一緒に味わっていきたいと思います。

ガリラヤ湖のほとりの小高い丘で、イエス様は弟子たちと集まってきた人々に向けて、たくさんの教えを語られました。

本当の幸せとは何か、神様に従うとはどういうことか。いろんなことを話されて、祈りの仕方を教えて、イエス様は次に「断食」について語っておられます。

ところで、皆さんは断食をしたことがありますか？あるとしたら、それはどういう時でしょうか。

キリスト教会では受難節、特にイエス様が十字架にかかられたことを思い起こす受難日に、断食して祈ることがあります。

まったく何も食べない断食だけじゃなくて、たとえば肉を食べないとか、砂糖を摂らないとか、面白いのはSNSを断つ「断食」もあるんだそうです。

ただ、多くのプロテスタント教会では、断食はあまり身近ではないように感じます。私たちにとっていちばん身近な断食は、健康診断とか検査の前かもしれませんね。前日の夜９時以降から検査が終わるまでですが、「何も食べてはいけない」と言われると、かえってお腹が空いて辛く感じるんじゃないでしょうか。

もちろん、この断食は必要があってすることですから、イエス様が言っておられる断食とは、また意味合いが違います。それでも、どういう理由にしても「何も食べてはいけない」というのは、なかなかに苦しいことだと思います。

その苦しさを我慢してでも、神様に訴えたいことがある。そういう意思表示として、ユダヤ教では古くから断食が行われていたんです。古代イスラエルにおいて、断食は「祈り」と「施し」と並んで、宗教的にとても大事にされている行為でした。律法では年に１回、「罪の贖いの日」と定められている日に、全員で断食をするようにと命じられています。人々は罪から清められるために、断食をして祈りを捧げました。

その日、神殿では大祭司によって、罪を贖うための犠牲の動物が捧げられました。律法で決められているのはこの日だけですが、時代が進むにつれて、断食の日はだんだんと増えていったようです。旧約聖書のゼカリヤ書には年に４回、断食の日があると書かれています。決められた日以外でも、個人的な祈りと合わせて行われる断食もありました。たと

えば深い悲しみを表す時、神様に聞いてほしい切実な願いがある時。人々は断食して、祈りを捧げました。イエス様もヨルダン川で洗礼を受けた後、聖霊の導きによって、荒野で４０日間断食して過ごされたと、福音書が伝えています。

＜断食をするときには＞

そんな風に、イエス様が生きておられた時代のイスラエルでは、個人的な断食がけっこう一般的に行われていたようです。

そして断食をするときには、ひと目で「あの人は断食中だな」とわかるような格好をするのが普通でした。髪の毛やあごヒゲを梳かさないで、わざと絡まったままにしておいたり、顔に灰とか泥を塗って汚したりするのが、当時の断食スタイルだったそうです。それは、もしかしたら「今、私は断食中ですから、食事に誘わないでください」という意思表示のためだったのかもしれません。

ですが何よりもまず、自分の気持ちを断食に集中させるために、そういう決まった格好をしたのだろうと思います。

何か仕事をする時、私たちはそのためのユニフォームを着ることが多いでしょう。私は礼拝の務めにあたる時に、こうやって黒いスーツやガウンを着ることを、自分で決めています。別にスーツじゃなくてもいいし、黒じゃなくて他の色でもいいんでしょうけど、黒いスーツを着ると「今から牧師として礼拝をする」という心構えができるんです。ユニフォームとまではいかなくたって、たとえば皆さんがコンサートや美術展に行く時は、いつもよりちょっと素敵な服を選ぶんじゃないでしょうか。そして片付けものをする時なんかは、汚れてもあまり気にならない、動きやすい格好をするでしょう。

これからすることに備えた格好をすることで、私たちの気持ちは自然に、そのことに集中していきます。だから断食をするときには、あえて髪もヒゲも放ったらかしにして、顔を汚して、自分たちの心を断食に向けて整えていたのでしょう。この習慣自体を、イエス様は否定しておられるわけじゃありません。

断食に集中して、神様に祈って訴えることに心を向ける。そのためにしていたはずのことが、いつの間にか「私は断食しています！」とを周りの人たちにアピールするためになってしまっている。そういう状況について、イエス様は今日の言葉で指摘なさっているんです。

「ほら、私は断食しているんですよ。すごいでしょう？信仰深いでしょう！」

そんな感じで、自分の断食の価値を他の人に認めてもらおうとして、わざと顔を見苦しくして、ぐったりした表情まで浮かべて見せるのは、偽善者がすることだ。そうイエス様はきっぱり言っておられます。

それでも、どうしたって人の目が気になるのが、私たち人間の弱いところです。「気にしてない」と思っていたって、自分が頑張っていることを無視されたり、軽く扱われたくないという気持ちは、誰の中にもあるものでしょう。

だから、本当に断食に集中するために、いつも通りの格好で断食しなさい、とイエス様は勧めました。頭に油をつけて、髪をつやつ

やに整えて、顔をきれいに洗っておきなさい。そうしたら、周りの人は誰もあなたたちが断食中だなんて思わないだろう。そうやって隠れて断食することで、隠れたところにおられる神様にだけ、あなたがしていることを知ってもらいなさい。そうイエス様は教えておられるんです。

＜隠れたところにいる神に＞

イエス様が問いかけておられるのは、「あなたがしていることの本質は何か」ということです。

もともと断食は、人が自分たちの罪深さを深く恥じて、悲しんで、神様の前にひれ伏して、憐れみと赦しを乞い願うためのものでした。

神様の愛に背いて、神様の思いを無視して、自分勝手にふるまっている。こんな罪深い私には、神様からの恵みを受け取る資格なんかない。
そう認めて恥じ入って、悔い改める気持ちを神様に示すために、「罪の贖いの日」に人々は断食をしていたはずでした。

悲しみを訴えるための断食も、食べ物が喉を通らないほどの深い嘆きを神様に知っていただいて、「助けてください！」と祈るためのものでした。
そのことを思い出しなさい、とイエス様は呼びかけておられるんです。

私たちは普段、自分の失敗や愚かさや罪深さを、わざわざ誰かに見せたいとは思わないでしょう。どちらかというと、誰にも見られないように隠しておきたいものだと思います。
良いことをしたとか、賢く振る舞ったとか、「素晴らしい」と褒めてもらえるようなことだったら、見てもらいたくなるかもしれません。ですが、恥ずかしいことや薄暗い気持ちや、自分の評価を下げてしまいそうなことを、
あえて人の目に晒したいとは、なかなか思えないはずです。

そして深い悲しみや、切羽詰まった願いは、私たちの心を周りに向けるよりは、むしろ自分の内側に沈み込ませるものでしょう。そこには、他人の存在を気にする余裕はありません。

断食をしていること、見せたくないはずの姿を、人に見られようとするのはなぜか。それは第一には、「あの人は断食をするほど信仰深い」と周りに認めてもらうためだったでしょう。でももっと言えば、それは「神様よりも、周りの人たちに何とかしてほしい」ということじゃないかと思います。

「信仰深い、立派な人だ」と認められて、自分の愚かさや罪深さを帳消しにしたい。悲しんで悩んでいることを知られて、慰めたり助けたりしてもらいたい。目に見えない神様よりも、目に見える人たちに、自分を救ってほしい。断食という信仰的な行いの裏側に潜む、そういう不信仰さを、イエス様は「偽善者」と呼んでおられるのでしょう。

いつの間にか、神様以外の誰かや何かに自分を任せたくなってしまう、私たちの弱さ。私たちが自分で気がつくことも、認めることもできないぐらい「隠れたところにある」罪。

そういうものに、自分の心を支配させないために。そして、人に見せる余裕もないほど沈み込んで「隠れている」私たちの悲しみや悩みを、ただ神様に差し出して、慰めと助けを求めるために。

「あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただく」ようにしなさい、とイエス様は教えました。

そう、神様もまた「隠れたところ」におられる御方です。神様の姿を、私たちが見ることはできません。神様の声を聞くことも、できません。神様がどこにおられるのかを触って確認することも、私たちにはできません。隠れたところにおられる神様が、たった一度、私たち人間にも見えて、聞こえて、触れる存在になってくださったのが、人となられた神様の独り子イエス・キリストです。

神様は、私たちの感覚も理解も超えた「隠れたところ」におられる。だからこそ、私たちが気がつくことも認めることもできない、そんな「隠れたこと」も全部ちゃんと見ておられる。人に見せるには大きすぎる悲しみや悩みも、「隠れたところ」におられる神様が、全部知っていてくださる。

だから他の誰かや何かじゃなくて、この「隠れたところにおられる」神様にこそ、あなたの全部を任せて、救い出していただきなさい。そうイエス様は、今日の言葉で私たちに呼びかけておられるんです。

新約聖書のヘブライ人への手紙が、こんな言葉を伝えています。

「更に、神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません。」

（ヘブライ人への手紙4:13）

神様の前で、私たちは何も隠すことはできません。良いところもダメなところも、頑張ったことも、やらかしたことも、悲しみも辛さも、「隠れたところにおられる」神様が、全部知っていてくださいます。この神様に、私たちは自分のことを何もかも申し述べていいんです。姿が見えないからこそ、声が聞こえないからこそ、触って確かめられないからこそ。「隠れたところにおられる」神様が、私たちが隠していることも、私たち自身からさえ隠れていることも、何もかもを知っていてくださいます。

知っている上で私たちを愛して、私たちすべての人の罪の代償を、独り子の命で支払ってくださいました。

この神様の愛と恵みに、今日、私たちは改めて心を向けましょう。

「隠れたところにおられる」神様に、私たちの思いも願いもすべてを差し出して、私たちの一歩一歩をお任せして、新しい一週間を進んでまいりましょう。

喜びも悲しみも、弱さも強さも、私たちのすべてをご存知の神様が、今日も私たちと一緒にいてくださいます。

お祈りいたしましょう。